

平成28年度 第2回 山梨県がん対策推進協議会

- 1 日時 平成28年11月29日(火) 午後3時～4時30分
- 2 場所 県庁防災新館401会議室
- 3 出席者(21人中18人出席)
石原委員、飯塚委員 大西委員、長田委員、小澤委員、小野委員、小俣委員、
窪川委員、嶋田委員、若尾委員、依田(芳)委員、依田(一)委員、許山委員、
望月委員、三森委員、星野委員、古屋委員、中村委員、
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議事
 - 1) がんに関する調査結果報告について
 - ① 県政モニター「がん対策に関するアンケート調査」
 - ② がん患者療養生活手帳「わたしの手帳」利用状況調査
 - ③ がん患者就労・療養生活に関する調査
 - 2) がん登録情報(2012年遡り調査結果から)
 - 3) がん対策推進事業について
 - ① ヘリコバクター・ピロリ除菌治療費助成事業
 - ② がんに関する事業主向け講習会
 - ③ 子宮頸がん検診受診率向上モデル事業について
 - ④ 市町村のがん対策(がん検診の精度管理)
 - 4) 各関係団体・機関におけるがん対策の現状・課題について
 - ① 患者団体の立場から
 - ・オストミー協会山梨県支部長(石原委員)
 - ・NPO 法人がんフォーラム山梨代表(若尾委員)
 - ② 山梨県がん患者サポートセンターの活動について
 - ・健康管理事業団 健康支援室 河西係長
 - 5) その他 がん対策推進協議会(国)の情報
 - (4) 閉会

5 協議概要

1) がんに関する調査結果報告について主な意見

- ・山梨県内の検診受診率は全般的に高めだが、精検受診率は地域にバラツキがある。検診受診率対策だけでなく、精検受診率対策も必要性ではないか。
- ・検診に関することは、地域の特性に合わせた取組が必要ではないか。
- ・緩和ケアについて、「がんと診断されたときから緩和ケアが必要」という普及は進んできた。今後は具体的に緩和ケアを活用できるような普及の段階になったのではないか。そのためには、さらにがん診療連携拠点病院についても普及していく必要があるのではないか。
- ・「がんになったら仕事を辞めなければ」という相談が多い。ハローワークとの連携も始まっている。今後も就労と治療の両立に向けた、がん相談支援の充実が必要性を感じている。

2) がん登録情報（2012年遡り調査結果から）について主な意見

- ・山梨県のがん登録は最も基準の厳しい部分をクリアはし全国に比べると比較的優れているがん登録情報であるため、更に充実させていく。
- ・遡り調査の部位別の罹患率だけでなく居住地別・年代別の統計からの課題の分析が必要ではないか。

3) がん対策推進事業について主な意見

- ・ヘリコバクター・ピロリ除菌治療費助成事業はあらゆる機会や機関に広報を行っていると思う。今後もさらに充実してほしい。
- ・科学的根拠に基づいたがん検診により、総体的にその地域の死亡率を減らすために市町村と連携し、例えば、胃の検診の内視鏡検査を2年に1回受診できるという環境整備にはなっていないので、がん検診科学的根拠に基づいた胃のがん検診としての内視鏡検査というものに対する環境整備も力を入れて欲しい。
- ・現在がん検診の年齢の上限ははっきり示されていないが、高齢者のがん対策についても、がん検診、抗がん剤等の治療など国の動きを把握しつつ計画策定して欲しい。

4) 各関係団体・機関におけるがん対策の現状・課題について主な意見

- ・がん患者の理解 例え、山梨県では人工肛門つけてる人の入浴拒否や入浴しなくても入館さえお断りな所もあるなど、安心して暮らせる社会の実現に向け、環境整備もお願いしたい。